

広島県竹原地区における地域フォーミュラリ普及啓発活動

竹原市ふくし健康まつり（医師会ブース）において、市民向けに地域フォーミュラリについて、広島県および竹原地区医師会と協力して普及啓発を行いました。

日本調剤グループで情報提供・コンサルティング事業を行う株式会社日本医薬総合研究所（本社：東京都港区、代表取締役社長：橋爪 敦弘、以下：日本医薬総合研究所）は、地域における医療費適正化および薬剤の標準化を目的に、自治体・保険者、関係団体と連携し、地域フォーミュラリの普及啓発支援活動を支援しております。

今回は、竹原市ふくし健康まつり（主催：竹原市）にて、広島県・竹原地区医師会とともに地域フォーミュラリの紹介・啓発を行いました。

実施概要

開催日：2025年10月5日

場所：竹原市保健センター（広島県竹原市）

主催：竹原市社会福祉協議会

参加者数：延べ100名以上(医師会ブース)

医師会ブースにて、竹原地区医師会の取り組みや、地域フォーミュラリの概要・導入効果について紹介を行い、採用薬の例や経済的メリットをわかりやすく解説、啓発資材を配布しました。あわせて、ジェネリック医薬品に関する啓発（「オーソライズド・ジェネリック（AG）ってなに？」「長期収載品の選定療養制度」など）をパネル展示・リーフレット配布を通して実施しました。また、血管年齢測定・肌年齢測定の体験ブースも設置し、多くの来場者にご参加いただきました。

1. 地域フォーミュラリ啓発資材

地域フォーミュラリ
ってご存知ですか?
～安心・安全で適正な薬の使い方を地域で進めています～

地域フォーミュラリとは?
医師会・歯科医師会・薬剤師会・行政が連携し、科学的根拠や地域の実情に基づき推奨する薬をまとめたものです。

目的
同じ病気には同じ効果のお薬を医療の質を高め、医療費の負担も減らす取り組みです。
竹原地区医師会・薬剤師会・行政が連携し、科学的根拠や地域の実情に基づき推奨する薬をまとめた地域フォーミュラリを推進しています。

メリット

- 安心** 科学的根拠に基づき、有効性、安全性、経済性から最適なお薬を推奨しています。
- 継続** 薬の切り替えが円滑で、入院・転院・退院後も安心して飲み続けられます。
- 節約** 後発医薬品の使用促進により、患者の自己負担額が減ります。

発行元：竹原地区地域フォーミュラリ委員会 広島県

どんな薬が選ばれているの?

例えばこんなお薬

- 高血圧薬 (ARB)
- 脂質異常症治療薬 (スタチン)
- 胃薬 (PPI)

採用薬一覧

| 薬剤科 | 採用薬剤 | 薬価 (11日薬価時) | 先発医薬品から後発薬へ切り替えた場合の節約額(例) 薬剤科(10割) 自己負担(3割) |
|-----------------|---------------|-------------|---------------------------------------------|
| 高血圧薬 (ARB) | 先発医薬品 | 76.3円 | 年間23,761円 年間7,128円 |
| | テルミサルタン80mg錠 | 11.2円 | |
| 脂質異常症治療薬 (スタチン) | 先発医薬品 | 63.8円 | 年間19,491円 年間5,847円 |
| | ロスバステチン5mg錠 | 10.4円 | |
| 胃薬 (PPI) | 先発医薬品 | 94.3円 | 年間30,295円 年間9,089円 |
| | ランソプラゾール15mg錠 | 11.3円 | |

詳しくは主治医・薬剤師にご相談ください

2. ジェネリック医薬品に関する啓発資料

ジェネリック医薬品を知ろう

先発医薬品と同一の有効成分・同等の効き目のお薬です。また、先発医薬品に比べて価格が安いので、お薬代の負担を軽減してくれるお薬です。

ジェネリック医薬品と先発医薬品は同一の有効成分ですが、錠剤などによって形状や包装などが異なる場合があります。切り替えをお考えの際は、かかりつけの医師・薬剤師にご相談ください。

ジェネリック医薬品と先発医薬品の違いについて

| 先発医薬品 | ジェネリック医薬品 |
|----------------|---------------|
| 有効成分が異なる | 有効成分が同一 |
| 錠剤・色・形状・包装が異なる | 錠剤・色・形状・包装が同一 |
| 品質・有効成分含有率が異なる | 品質・有効成分含有率が同一 |

Q ジェネリック医薬品って、なんでお薬代が安いのか?

先発医薬品の開発には多大な研究開発費と期間が必要となりますが、ジェネリック医薬品はその特許期間がきた後に承認を受けて製造・販売されるため、これらのお薬代が削減され、ジェネリック医薬品は先発医薬品よりお薬代が安くなります。

また、お薬の有効成分や錠剤の形状などは先発医薬品と同一で、お薬を作る工数が減ったお薬もあるんですよ。

もともと安いお薬がさらにお安くなるので、薬剤師さんにご相談してみようかしら。

ジェネリック医薬品でも先発医薬品とそっくり?! オールサイズド・ジェネリック (AG) をご存知ですか?

Q オールサイズド・ジェネリック (AG) ってなに?

オールサイズド・ジェネリック (AG) は、先発医薬品メーカーから承認を経て製造した「新薬」(新薬) 又は「特許期間がきた後」に承認を受けて製造・販売されることにより、ジェネリック医薬品と同一の有効成分・同等の効き目を持つお薬です。また、「新薬」だけでなく、「形状・色・包装」も同一で、先発医薬品と同じ工程で製造されることがあります。すべてのお薬にオールサイズド・ジェネリック (AG) があるわけではありません。詳しくはかかりつけの薬剤師にご相談ください。

オールサイズド・ジェネリック (AG) と一般ジェネリック医薬品の違い

| 有効成分 | 効能・効果 | 製剤・包装 | 形状・色 | 包装場所 |
|---------------------|-------|-------|------|------|
| オールサイズド・ジェネリック (AG) | 同一 | 同一 | 同一 | 同一 |
| 一般ジェネリック医薬品 | 同一 | 同一 | 同一 | 同一 |

※お薬の形状や包装は先発医薬品と異なる場合があります。

「長期収載品の選定療養制度」とは?

「ジェネリック医薬品」がある「先発医薬品」をご自身の希望で処方してもらった場合に「ジェネリック医薬品」上の差額 (4分の1) にあたる特別の料金を負担する制度。

対象のお薬は?

ジェネリック医薬品が処方されてから 5年以上経過している先発医薬品

ジェネリック医薬品への置き換え率 50%以上になった先発医薬品

現在「対象外」の方も、今後対象となる可能性も!

(例) 差額の不足が不足額で対応できる「対象外」となっていた方は、不足額が解消された場合に、対象外の対象となる (自己負担が増える) 可能性があります。

どのくらい増えるの?

ジェネリック医薬品と先発医薬品との差額 1/4 (対象対象) の自己負担が増えます

例) 1300円のジェネリック医薬品がある「100円」の先発医薬品を、ご自身の希望で処方してもらった場合 (100円-300円=差額400円) ※自己負担割合は3割の場合

自己負担額 270円 → 390円 (100円の差額)

自己負担額165円 (150円) + 保険適用225円

差額 150円 (100円) + 225円

差額 430円 825円

年間推計 1,440円も増額に!

1 差額600円×1/4=150円
2 (100円-180円)×3割=225円

※保険適用225円×4割=90円の場合です。

※上記は当院で使用している「ペーパー処方箋」をイメージして算出しております。当該医薬品は、お薬手帳・使用回数により使用量が異なる為、参考情報としてご覧ください。

あなたが処方されているお薬が対象であるかどうか、右記二次コードよりご確認ください。

この機会に、お薬の見直しをお勧めいたします!
ジェネリック医薬品へ変更を希望される方は、医師・薬剤師にご相談ください。

3. 参加者の反応

参加された市民の方々からは、

- ・「竹原地区で地域フォーミュラりの取り組みがあることを初めて知った」
- ・「後発医薬品やAGについて詳しく理解できた」

などの声が寄せられ、医療費の仕組みや薬の選択への関心が高まる有意義な機会となりました。

また、血管年齢・肌年齢測定を通じて、健康意識の向上や生活習慣の見直しにつながったという意見も多く、地域住民の健康増進と医療啓発の両面から高い効果が見られました。



今回、広島県委託のもと、竹原市ふくし健康まつり（医師会ブース）において、市民向けに地域フォーミュラリとは何か、そのメリットや竹原地区で採用されている医薬品について、広島県および竹原地区医師会と協力して普及啓発を行いました。

なお、日本医薬総合研究所では、地域フォーミュラリ策定に向けて、処方状況の把握のための分析や、地域フォーミュラリのシミュレーション分析等も行っております。詳細情報をご希望の方は、問い合わせフォームよりご連絡ください。

【分析レポートについて】 <https://www.jpmedri.co.jp/category/topic/>
処方箋情報・レセプト情報などの医療データをもとに、さまざまな医薬品市場の処方傾向の変化を分析し、解析結果のレポートを定期的に配信しています。

【株式会社日本医薬総合研究所について】 <https://www.jpmedri.co.jp/>
日本調剤グループ各社を通じて培った医療情報資源を基に、医薬業界の健全なる発展、成長に寄与し、国民生活の向上に資する価値ある情報サービスを提供するために2012年1月に発足しました。製薬・ヘルスケア企業、医療機関・保険者さま・保険薬局からのさまざまなニーズに応えるため、処方箋情報・レセプト情報をはじめとする各種医療ビッグデータを基盤に、「医療の質の向上」、「医療費の適正化」、「国民の健康寿命の延伸」といった日本全体の医療課題に貢献してまいります。

【日本調剤グループについて】 <https://www.nicho.co.jp/brand/>
日本調剤グループは、すべての人の「生きる」に向き合う、という揺るぎない使命のもと、調剤薬局事業を中核に、医薬品製造販売事業、医療従事者派遣・紹介事業、情報提供・コンサルティング事業を展開する、多様な医療プロフェッショナルを擁したヘルスケアグループです。医療を軸とした事業アプローチによる社会課題解決を通じて持続可能性を追求し、すべての人の「生きる」に貢献してまいります。

【本レポートに関するお問い合わせ先】
株式会社日本医薬総合研究所
TEL : 03-6810-0812 FAX : 03-5288-8692
E-mail : soken-info@jpmedri.co.jp

本レポートに関わる無断での引用、転載および複製は禁止します。
当社は、本レポートの内容および閲覧者が本レポートを通じて得る情報等について、その正確性、完全性、網羅性、有用性、最新性、適切性等、その内容について何ら法的保証をするものではありません。
本レポートの閲覧者による、これらの情報の利用により、万一何らかの損害や不利益等が生じても、当社は一切の責任を負いません。